

COVID-19 はどのように報じられたのか？ : 2020年1月から5月における新聞記事調査

How Did News Media Report the COVID-19 Crisis ? :
Online Newspaper Article Survey from January to May 2020

折戸 洋子*, 村田 潔*, 石丸 聡一郎†, 大原 千晶‡,
小野 新†, 川端 美裕‡, 岸 諄†, 木村 元紀‡,
庄司 遼太郎‡, 角 直輝†, 鶴田 尚‡, 鳴尾 空海‡,
西岡 太一†, 山口 英里†

Yohko ORITO, Kiyoshi MURATA, Soichiro ISHIMARU, Chiaki OHARA,
Arata ONO, Miyu KAWABATA, Ryo KISHI, Masaki KIMURA,
Ryotaro SHOJI, Naoki SUMI, Nao TSURUTA, Takahiro NARUO,
Taichi NISHIOKA, Eri YAMAGUCHI

要 旨

本研究は、2020年1月から5月というWHO（World Health Organization, 世界保健機関）によるパンデミック宣言や日本で発令された緊急事態宣言を含む時期において、新型コロナウイルスに関する報道内容にどのような変遷があったのかについて概観することを目的とする。そのために、新聞と通信社による報道記事を主な調査対象とし、2020年1月から5月にかけての新聞一般紙や地方紙（一部）、通信社などの記事を調査し（一部についてはソーシャルメディア記事を対象）、記事内容を15のカテゴリごとにまとめ、時系列での新聞報道内容や情報発信動向の変遷、それらとデマ情報との関係について検討する。

Abstract

The purpose of this study is to overview how the spread of COVID-19 was covered by the news media from January to May 2020. In this period, the pandemic declaration was issued by the World Health Organization on March 11th and a state of emergency was declared in Japan on April 7th. The main sources of information we investigated are articles from national and regional papers and news agencies. We grouped the articles into 15 categories based on their contents, and examined the trends and transitions of such news coverage over time and the relationships between them and fake information on the disease.

キーワード：新型コロナウイルス、新聞記事、マスメディア

Keywords: COVID-19, Newspaper articles, Mass media

* 愛媛大学 社会共創学部 准教授
Faculty of Collaborative Regional Innovation, Ehime
University, Associate Professor
‡ 明治大学 ビジネス情報倫理研究所 教授
Centre for Business Information Ethics, Meiji University,
Professor

† 愛媛大学 社会共創学部 3 年生
Faculty of Collaborative Regional Innovation, Ehime
University, Junior
‡ 明治大学 商学部 3 年生
School of Commerce, Meiji University, Junior

1. はじめに

2020年は世界中の多くの人々にとって大きな変化を迫られた年であった。それは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）というグローバルレベルでの影響をもたらす感染症の流行によってもたらされた変化である。この新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本においても個人の日常生活や経済活動は多かれ少なかれ、何らかの変化を迫られることとなった。しかしながら、この新型コロナウイルスの特徴が人類にとって十分に解明しつくされていないものであるために、その感染症としての特徴の解明やそれに対する有効な対策、予防策についても、地道な研究や治療実績が重ねられることによって徐々に明らかになりつつあり、現在もそのための努力が続けられている。

そして、このことを反映するように、新型コロナウイルスに対する報道内容はこのわずかの短期間のうちに大きく変化している。2020年上半期のみを見ても、日本でCOVID-19の発生や流行が報じられた初期の頃とその後では、新型コロナウイルスの特質やその対策、予防法、治療薬に関する報道内容も異なり、報道内容からもマスクの着用や除菌、三密対策など日常生活の中でも様々な変化が生じたことを概観することができる。

このような新型コロナウイルスの感染拡大の動向は日々変化しており、もはやその状況や事態の急変に対応がついていけないという感覚を覚えている人も少なくないかもしれない。あるいは、新型コロナウイルスの特性やその予防策、治療方法などに関する根拠のないデマが拡散されているのを目の当たりにし、情報の真偽や適切な対策方法がわからないという不安感に苛まれた個人もいるかもしれない。

とはいえ、新型コロナウイルスの発生と感染拡大に関して、インフォデミックと例えられるような、膨大な情報に振り回され、その都度右往左往するだけでは、今後の対応策を検討する

ことや、どのように報道内容と向き合うべきかを理解することは困難である。そのために、新型コロナウイルスに関して何が起こり、どのような変化が迫られたのかを改めて整理し、今後、さらに新型コロナウイルスの感染拡大による影響が深刻化する場合や、全く別のウイルスの発生によって同様の事態が生じる場合を想定しながら、どのような姿勢で感染症対策やそこでの報道内容に向き合うべきかについて改めて考える必要があるものと考えられる。

以上の問題意識に基づき、本研究は、2020年1月から5月というWHO（World Health Organization, 世界保健機関）によるパンデミック宣言や日本で発令された緊急事態宣言を含む時期において、新型コロナウイルスに関する報道内容にどのような変遷があったのかについて概観することを目的とする。そのために、マスメディアの中でも情報発信に関する信頼性が高いものとして新聞と通信社による報道記事を主な調査対象として選択し、2020年1月から5月にかけての新聞一般紙や地方紙（一部）、通信社などの記事を調査し（一部についてはソーシャルメディア記事を対象）、記事内容を15のカテゴリごとにまとめ、時系列での新聞報道内容や情報発信動向の変遷、それらとデマ情報との関係について検討する。

2. COVID-19に関する新聞報道・情報発信に関する調査

2.1 調査概要

本研究の調査期間は、パンデミック宣言や緊急事態宣言期間中を含む、2020年1月から5月までであり、調査活動は2020年5月に開始された。新型コロナウイルス関連の記事は膨大になるため、表1に示されるカテゴリごとに、朝日、毎日、読売、日経、産経、地方紙（一部）、通信社（時事通信、共同通信、AFPなど）を対象に各ニュースメディアが公表するオンライン記事データベースから記事を検索し、デマに

についてはSNS（Social Networking Service）やソーシャルメディアサイト上で検索を行った。なお、表1の記事件数には、カテゴリをまたがる記事も含まれており、互いに排他的ではない。

2.2 調査結果

表1にあげられるすべてのカテゴリの記事を紹介することは紙幅の関係から困難であるため、本章では、「新型コロナウイルスの特質」、「有効な感染症対策」というカテゴリでの記事検索の結果を示すことによって時系列での変化を確認していくこととし¹⁾、最後にデマの動向について検討する。

2.2.1 新型コロナウイルスの特質

新型コロナウイルスの特質では、その感染力、重症化率、死亡率、年齢層や疾患の有無による深刻度、流行の終息時期などに関する記事を調査し、その結果の一部は表2にまとめられる。

表1 記事カテゴリごとの集計結果（重複を含む）

カテゴリ名	記事件数
新型コロナウイルスの特質	107
新型コロナウイルスの起源	53
有効な感染症対策	57
療法・治療薬	48
明らかなデマ	42
ICTを利用した新型コロナウイルス対策	26
各国の感染症対応策（アジア、ヨーロッパ、その他）	55
各国における医療崩壊（アジア、ヨーロッパ、その他）	25
新型コロナウイルス感染によって発生・増幅された差別・偏見	34
生活上の変化	84
社会問題	25
宗教との関係	21
経済問題	46
企業行動	29
国際対立	34
合計	686

表2 新型コロナウイルスの特質に関する記事見出し（2020年1月～5月）

月	時期	記事見出し（Source, 日）
1月	1～10日	1. 「中国の肺炎 新型コロナウイルスか 現地報道 複数患者から検出」（読売9日） 2. 「中国の肺炎 新種か コロナウイルス WHO「感染しにくい」（読売10日）
	11-20日	1. 「新型ウイルス肺炎、初の死者、中国・武漢」（日経11日） 2. 「武漢の肺炎、初の死者」（朝日11日） 3. 「新型肺炎 タイで中国人発症－人から人、可能性低く、動物介して感染か」（日経15日） 4. 「新型肺炎の国内流行「リスク低い」厚労省、冷静な対応呼び掛け」（時事16日） 5. 「ヒトヒト感染「排除できず」新型コロナウイルスで武漢当局」（朝日16日） 6. 「中国肺炎「人から人」か」（読売16日） 7. 「新型肺炎、どう備え－通常の感染対策が重要、「手洗い徹底を」（Q&A）」（日経17日） 8. 「人からの感染、限定的 専門家、冷静な対応求める－新型コロナウイルス」（時事20日）
	21-31日	1. 新型肺炎、死者4人に 中国「ヒト・ヒト感染」確認－WHO、22日に緊急会合（時事21日） 2. 「新型肺炎「人から人に感染」中国専門家チーム確認、WHO、緊急会合へ」（日経21日） 3. 「新型肺炎「人から人」感染 危機感」（読売21日） 4. 「新型肺炎4人目死者 中国「ヒトからヒト」確認」（毎日12日） 5. 「「新型肺炎ウイルス変異の可能性、さらに拡散の恐れ」中国当局 死者9人に」（毎日22日） 6. 「新型肺炎、感染力SARSに近い？専門家「毒性強くなさそうだが死者増えている」（毎日23日） 7. 「新型肺炎、医療対策手探り 中国死者26人に、日本でも2例目、SARS類似の見方」（日経25日） 8. 「世界的には低レベル」新型コロナウイルスのリスク－WHO」（時事26日）

1) 以下の表2～4に示す記事について、新聞記事本体（紙媒体）とオンラインとで掲載日の記載が異なる場合がある。

		<p>9. 「無症状の感染者 確認 発熱なし 検査逃れ懸念」(読売 26日)</p> <p>10. 「死者6割に持病 平均73歳 中国当局 17人分析」(読売 26日)</p> <p>11. 「新型肺炎, 人から人拡大「感染力見極めを」-手洗いで予防可能・専門家」(時事 27日)</p> <p>12. 「世界的にも高リスク」新型コロナウイルスで WHO 訂正」(時事 28日)</p> <p>13. 「感染力が強まっている根拠ない」国立感染症研 せき, くしゃみ飛沫感染の疑い」(毎日 28日)</p> <p>14. 「強い感染力 官邸一転 異例トップダウン」(読売 28日)</p> <p>15. 「感染拡大懸念, 新型肺炎の特徴は」(日経 29日)</p> <p>16. 「人から人」感染と認定 新型肺炎, 接触者も連絡を-厚労省」(時事 30日)</p> <p>17. 「軽症患者, 感染広げる恐れ SARS との違いは 新型肺炎」(朝日 30日)</p> <p>18. 「新型肺炎「子供は感染しにくい」と専門家 致死率はSARSやMARS下回る」(毎日 30日)</p> <p>19. 「無症状でも感染」帰国者滞在のホテルに衝撃「陽性」2人とも相部屋」(毎日 30日)</p> <p>20. 「新型肺炎, 不安な人は? 感染力インフル以下-「落ち着いて対処を」・専門家」(時事 31日)</p>
2月	1~10日	<p>1. 「新型肺炎 ウイルス分離に国立感染研成功」(毎日 1日)</p> <p>2. 「なぜ症状に差 ウイルス増える場所に違いか」(読売 2日)</p> <p>3. 「強い感染力 軽症が多め」(読売 3日)</p> <p>4. 「新型肺炎, 現時点でパンデミックに当たらず WHO 幹部」(時事 4日)</p> <p>5. 「厚労省, 新型肺炎の検査対象拡大 発熱とせきなども 潜伏期間10日間に直視」(毎日 4日)</p> <p>6. 「新型肺炎, 「エボラ並み」該当せず 政府, 推移を注視」(時事 5日)</p> <p>7. 「WHO, 新型肺炎「パンデミックではない」」(日経 5日)</p> <p>8. 「WHO 専門家「潜伏最長14日」」(読売 6日)</p> <p>9. 「重症化しそうな患者に検査を 基準の必要性指摘-感染研センター長」(時事 7日)</p> <p>10. 「新型コロナ, 発症すると・インフルエンザに近く?」(日経 7日)</p> <p>11. 「新型肺炎かかったら? インフルと症状似る せき・熱, 既存薬で対応」(日経 9日)</p>
	11-20日	<p>1. 「新型肺炎, 4月には終息? トランプ氏予想, 専門家は批判」(時事 11日)</p> <p>2. 「空気感染の可能性指摘 上海当局」(読売 11日)</p> <p>3. 「発症から3日は注意」WHO 幹部 ウイルス排出量多く」(読売 14日)</p> <p>4. 「高齢」「持病」に重点 専門家会議 新型肺炎 冷静化へ議論」(読売 17日)</p> <p>5. 「新型肺炎 受診目安 風邪症状・37.5度以上が4日」(読売 18日)</p> <p>6. 新型肺炎 国内感染どう対応 8割が軽症, 重症者対策に重点, 検査拡充1日3000件に倍増」(日経 18日)</p> <p>7. 「【解説】新型コロナウイルス「大半は軽度」中国大規模調査」(時事 19日)</p> <p>8. 「致死率 約2%」WHOが見解」(読売 19日)</p> <p>9. 「風邪症状なら外出控えて」首相呼びかけ」(読売 19日)</p>
	21-29日	<p>1. 「新型肺炎 中国で報告相次ぐ, 無症状・軽症でも感染か, 拡散力, インフル並み」(日経 23日)</p> <p>2. 「WHO 事務局長, 世界はパンデミックへの備え必要 新型肺炎」(時事 25日)</p> <p>3. 「世界で「非常に高い」に引き上げ WHO, 新型ウイルスのリスク」(時事 29日)</p> <p>4. 「世界のリスク, 最高に引き上げ 最大級の対応勧告-新型ウイルスでWHO」(時事 29日)</p> <p>5. 「80歳超, 5人に1人死亡 WHO, 中国のデータを分析 新型肺炎」(朝日 29日)</p>
3月	1~10日	<p>1. 「新型コロナ感染者「8割は他にうつさず」厚労省見解」(日経 1日)</p> <p>2. 「新型コロナのたんばく質 細胞へのくっつきやすさ SARS の10~20倍」(日経 1日)</p> <p>3. 「マスク使用法, WHO が指針「予防目的では不要」」(日経 2日)</p> <p>4. 「【解説】新型コロナウイルス, 死亡リスクが高いのは誰か」(AFP 3日)</p> <p>5. 「新型コロナウイルスのパンデミック宣言を求める エイズ医療財団 [BW]」(時事 4日)</p> <p>6. 「インフルより感染力低い」WHO 事務局長「致死率は高い」新型コロナ」(朝日 4日)</p> <p>7. 「新型コロナ, 18歳以下の感染少ない WHO 報告書の謎」(日経 5日)</p> <p>8. 「新型肺炎, 恐れすぎず防御を 県感染症対策協議会会長・吉川氏に聞く/高知県」(朝日 6日)</p> <p>9. 「新型コロナ, 「夏に終息」は間違い WHO」(時事 7日)</p> <p>10. 「パンデミック「現実味増した」新型コロナでWHO トップ」(時事 10日)</p> <p>11. 「喫煙は重症化のリスク」(共同 (愛媛) 10日)</p>
	11-20日	<p>1. 「新型コロナは「パンデミック」WHO, 全力の対応訴え」(時事 12日)</p> <p>2. 「新型コロナ 感染拡大, 収束見えず 流行繰り返す恐れ」(日経 12日)</p> <p>3. 「新型コロナ 分析進む 感染力 2種類で違い 年齢差なし」(読売 12日)</p> <p>4. 「【解説】新型コロナウイルスと季節性インフルエンザは別の物」(AFP 13日)</p> <p>5. 「無症状「沈黙の肺炎」せきや発熱なし 重症化の恐れも」(読売 16日)</p> <p>6. 「Q&A 新型コロナ 感染から発症 どれくらい」(読売 19日)</p>

21-31日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナ 感染の特徴は？ 軽症者からの広がりも」(読売 21日) 2. 「新型コロナ 研究成果相次ぐ 細胞との結合強く 症状ばらつき究明 流行予測や薬開発後押し」(日経 21日) 3. 「(診察室から)新型コロナ、香港で犬に感染？」(朝日 24日) 4. 「鼻でも肺でも増える厄介さ」(共同(愛媛) 26日) 5. 「新型コロナ、全世代が注意を 50歳未満の15%は中・重症-WHO」(時事 28日) 6. 「死亡率 持病あると高く」(読売 28日) 7. 「嗅覚や味覚異常 海外でも報告例」(読売 28日) 8. 「嗅覚・味覚に異常、症状報告相次ぐ 新型コロナ発症初期 WHOが調査へ」(日経 28日) 9. 「80歳以上、6人に1人が死亡 新型コロナ感染者-韓国」(時事 29日) 10. 「高齢者 急激に重症化も」(読売 31日) 	
4月	1~10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「若年層も重症化リスク 相次ぐ報告、欧米で死亡例 新型コロナ」(日経 1日) 2. 「若者も重症化の可能性」(読売 1日) 3. 「ペットから人に広がらない」(共同(愛媛) 9日)
	11-20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナ、乳児・子供、重症例相次ぐ 早期の発見カギに」(日経 12日) 2. 「新型コロナ感染者の7割、50代以下 死亡は8割超が70代以上-厚労省集計」(時事 13日) 3. 「表面にウイルス長く残る」(共同(愛媛) 15日) 4. 「回復後の抗体検査 課題 新型コロナ相次ぐ再陽性診断に、専門家「通常は免疫反応」」(日経 15日) 5. 「武漢死亡率12%」(読売 16日) 6. 「コロナ、夏でも警戒必要」(日経 17日)
	21-30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「年齢上がるほど高リスク」(共同(愛媛) 24日) 2. 「重症化 最初は「息苦しさ」自衛隊病院の医師指摘」(読売 24日) 3. 「海外31カ国の現地在住ライターに聞く「コロナ終息予想」」(時事 26日) 4. 「コロナ重症化 遺伝子研究 世界から参加 予防・治療薬に期待」(日経 26日) 5. 「在宅勤務「つい喫煙」注意、コロナ重症化リスクに、本数増える人多く、免疫力低下の恐れ」(日経 27日) 6. 「コロナ重症 腎不全急増 米、透析機器の不足深刻 日本でも対応急務」(日経 28日)
5月	1~10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「感染者7割弱 軽症・無症状」(読売 1日) 2. 「重症者 急激に悪化」(読売 4日) 3. 「感染判明から死亡8.7日 コロナ 東京・大阪100人分析」(読売 4日)
	11-20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「コロナ再陽性、17都道府県で37人 原因不明」(毎日 11日) 2. 「茶カテキン「感染症予防に効果期待」 県立大薬学部・山田浩教授に聞く/静岡県」(朝日 13日) 3. 「新型コロナ長期化必至 パンデミックは序章」(日経 15日) 4. 「遺伝子や疾患 死亡率に影響か 新型コロナ、アジア低く 文化・習慣の違いも」(日経 20日)
	21-31日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「日本人 なぜ死者少ない？」(読売 22日) 2. 「新型コロナ 喫煙で重症化 禁煙は「感染対策」」(読売 30日) 3. 「家庭用洗剤の7成分、コロナ消毒に有効」(朝日 30日)

COVID-19について、2020年1月上旬の時点では、中国武漢での発生が報じられてからもあまりシリアスな報道はなされておらず、世界的な感染の危険性についても嚴重な警戒はされていない。感染力についても同様に、低いという見通しであった。しかし、2月に近づくと、このウイルスへの危機感はさらに強まっていく。2月上旬ではまだ感染拡大についての全体的な警戒口調は弱いものの、ダイヤモンドプリンセス号での集団感染が報道されたのが2月で

あったこともあり、徐々に感染力の強さやその危険性の高さが指摘されていく。2月中旬には当時の米大統領が新型コロナウィルスの感染は4月には終息するという見通しを示しており、たとえ罹患したとしても大半の人は軽度の症状で済むということが確認されているという報道がみられた。一方で空気感染の可能性についてはより強く指摘され、2月下旬になると高齢者と基礎疾患のある人のリスクの高さや、致死率についての具体的な数字が報じられていく。

この時期にヨーロッパでの感染が拡大していることを背景の一つとして、3月上旬からパンデミックへの発展の可能性が指摘され、夏までに感染が終息するかわからないという感染長期化への懸念が示され始める。また、喫煙者や若者のリスクなど、年代や生活習慣などによるリスクの違いなども指摘される。そして、2020年3月11日にはWHOによるパンデミック宣言が出され、この時期になると、感染力の強さや重症化リスクなども社会的にかなり認識され、危機感は強いものとなり、不要不急の外出を控えるということも恒常化していく。COVID-19の症状に関しては味覚や嗅覚に異常が出る人が多いことや、高齢者は重症化しやすいということが指摘されるようになる。この時期には、未知な部分の多いCOVID-19にかかりたくない、かかるとはいけないという思いを強くし、そのために自分の行動を規制する人が増えていく。この記事カテゴリでは取り上げられていないものの、日本では、3月末に志村けん氏が亡くなったことも報じられ、このことが日本全体で、新型コロナウイルスの影響による死亡がより実感をもって認識されるきっかけとなった可能性も高い。

4月になると、コロナウイルスの特質については、若者や子供でも重症化することが認識され始める。また、気温が上がれば、インフルエンザの流行のように感染者が減っていくのではないかという希望的な予想をする人もいた

のに対して、この時期になると、そうではないという意見が専門家などから述べられはじめていく。一方で徐々にデータが集まったことによって、高齢者のリスクの高さがより強調されたり、初期症状としての息切れや息苦しさ、急性腎不全を起こすケースが多いことも確認されたりといった、具体的な症状についての報道も行われていく。

5月の時点での特質については、7割弱の感染者が軽症・無症状、重症化すると短い期間で悪化する、判明から死亡までの平均8.7日など具体的な感染者の状況がより詳細に報じられるようになり、中旬には再陽性者が確認されたこともわかっている。この時期には世界的に見てもCOVID-19の影響が長期化する、つまり年単位での対応が必要であるとの見方が示される。その中で、世界的な感染拡大の状況の中でなぜ日本人の死者数が比較的少ないのか？という疑問についての仮説がたてられるようになり、その仮説には遺伝子や生活習慣の違いなどの指摘も含まれていた。

2.2.2 有効な感染症対策

COVID-19という感染症に対する対応策についても、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンスなど、時期によってよく使われる単語も異なっており、その主な新聞記事報道内容の一部は、以下の表3のようにまとめられる。

表3 COVID-19への有効な対策に関する主な記事見出し (2020年1月～5月)

月	時期	記事見出し (Source, 日付)
1月	11-20日	1. 「新型肺炎「冷静に」厚労省対応追われる 国内初確認「通常の感染症対策を」(読売16日) 2. 「県など冷静対応を武漢の肺炎、県内男性感染／神奈川県」(朝日17日)
	21-31日	1. 「新型肺炎、もし感染したら？ 治療薬なし、対症療法中心 マスク、手洗い…予防が大事」(毎日22日) 2. 「新型肺炎、感染力SARSに近い？ 専門家「毒性強くなさそうだが死者増えている」(毎日23日) 3. 「新型肺炎「予防を」知事、対応を呼びかけ」(朝日23日) 4. 「安倍首相、新型肺炎の迅速な情報提供指示 「落ち着いて行動を」(時事24日) 5. 「小池知事、新型肺炎の感染拡大防止徹底を 五輪開催に向け対策会議－東京都」(時事24日) 6. 「県、新型肺炎対策に本腰」(朝日24日) 7. 「新型肺炎、試される備え 申告なし 発熱検知されず」(朝日25日)

		<ul style="list-style-type: none"> 8. 「新型コロナウイルス、人から人拡大「感染力見極めを」-手洗いで予防可能・専門家」(時事 27日) 9. 「武漢から帰国、受け入れは機内で検疫、朝夕2回の検温も 新型コロナウイルス」(朝日 28日) 10. 「バス内で長時間接触か新型コロナウイルス、二次感染」(朝日 29日) 11. 「感染拡大懸念、新型コロナウイルスの特徴は」(日経 29日) 12. 「基礎からわかる新型コロナウイルス=特集」(読売 30日) 13. 「マスク、効果は つけ方は」(朝日 30日) 14. 「新型コロナウイルス予防対策 マスク求め、客殺到 医師「手洗いしかない」」(毎日 31日) 15. 「テレワーク、上限3倍に 新型コロナウイルス対策-環境省」(時事 31日) 16. 「新型コロナウイルス、不安な人は？ 感染力インフル以下-「落ち着いて対処を」・専門家」(時事 31日) 17. 「無症状者から感染の恐れ 個人の対策「変わらず」と専門家-新型コロナウイルス」(時事 31日) 18. 「新型コロナウイルス、拡大防ぐには—— 症状出ない感染者に注意、PC・スマホ除菌習慣を、高濃度アルコール効果(Q&A)」(日経 31日)
2月	1～10日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「感染症、効果的な対策はマスクや消毒、食事で免疫力」(朝日 4日) 2. 「WHO、マスクは予防にならない パンデミックではなく『インフォデミック』新型コロナウイルス」(毎日 5日)
	11-20日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナウイルス 暮らしの工夫で感染予防「手洗い」「栄養バランスのとれた食事」「十分な睡眠」」(毎日 15日) 2. 「国内感染拡大を前提に対応 新型コロナウイルスで加藤厚労相」(時事 16日) 3. 「暖冬傾向、新型コロナウイルスの感染力に影響？」(日経 18日)
	21-29日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「Jリーグ開幕戦、感染予防策を徹底 入場口で消毒液など対策-新型コロナウイルス」(時事 21日) 2. 「新型コロナウイルス 日常生活 感染防ぐには 政府基本方針」(読売 26日)
3月	1～10日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「米男子ゴルフは予定通り NBA はハイタッチ自粛-新型コロナ」(時事 3日) 2. 「新型コロナウイルス感染拡大で全校休校 死者100人超、「キス握手控えて」-伊」(時事 5日) 3. 「WHO 感染予防にマスクは不要は本当か 専門家に聞いた」(毎日 6日) 4. 「ウオッカ、新型コロナに効果なし メーカー、感謝に困惑-米国」(時事 7日) 5. 「静寂の中 取組淡々 大相撲無観客「お客さん全国で応援」新型コロナ」(読売 9日)
	11-20日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナ対策、手洗いどうすれば」(朝日 11日) 2. 「新型コロナ感染拡大 「マスクや手袋では防げない」専門家ら指摘」(AFP 18日) 3. 「新型コロナ 軽い筋トレで免疫力アップ 自宅できるメニュー紹介 医師らで作る団体」(朝日 20日)
	21-31日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「超大国アメリカを揺るがす新型コロナウイルス～変わる日々の生活～」(時事 21日) 2. 「新型コロナ 密閉、密集、距離の近さ「3条件」3週間回避を 知事呼びかけ 東京」(毎日 24日) 3. 「デマ、便乗商法に注意「予防効果」現時点ではすべて根拠なし」(朝日 25日) 4. 「「密閉・密集」避けて 大規模流行の危険続く新型コロナ-ニュース Q&A」(時事 28日) 5. 「たばこを吸っていると新型コロナで重症化しやすいのは本当か 専門家が警告する」(毎日 29日)
4月	1～10日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナ対策専門家会議の分析と提言」(読売 2日) 2. 「50回洗っても抗菌効果マスク ミキハウス6日発売」(朝日 3日) 3. 「[コロナから守る] 感染防止策手洗い基本 飛沫対策 マスク着用」(読売 6日) 4. 「#東京脱出、専門家「やめて」」(朝日 7日) 5. 「マスクに予防の証拠なし 政策決定には注意を-WHO」(時事 8日) 6. 「外出自粛、運動はどこまで」(朝日 9日) 7. 「[コロナ疎開、控えて] 対象外自治体から次々 緊急事態宣言 変わる日常」(朝日 9日) 8. 「人と人との接触8割減らす」どうすれば？ たとえば「ランチ、買い物1人で」(毎日 9日)
	11-20日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「[「他者との距離」どう取る？ 2メートル前後を義務化、罰金も-各国・新型コロナ」(時事 11日) 2. 「高度数の酒で代用可 医療機関の消毒液不足で-厚労省」(時事 14日) 3. 「台所洗剤でコロナ消毒可能 経産省、来月検証試験で確認」(時事 15日)
	21-30日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「コロナ対策の「社会的距離」どのくらい？」(朝日 22日) 2. 「新型コロナ 医療機関向け消毒用酒 ウオッカや蒸留酒、品薄受け製造 県内酒造会社/山形」(毎日 22日) 3. 「新型コロナ 専門家会議の提言」(読売 23日)
5月	1～10日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「新型コロナ感染防止2メートル離れるのが有効？」(朝日 4日) 2. 「新型コロナ専門家会議提言の「新しい生活様式」一人一人が感染防ぐ」(読売 5日) 3. 「食事は横並び、毎朝体温測定 新しい生活様式提示」(朝日 5日)

2020年1月に新型コロナウイルスの発生が報じられた初期の時点では、厚生労働省から「通常の感染症対策」を冷静に行うということが呼びかけられた。しかし、徐々にその感染力や感染拡大への懸念が広がってくる。1月下旬になってくると治療薬がまだないこと、通常、インフルエンザのような感染症対策としてもとられる、手洗い、マスク、除菌などが勧められ、この時期からすでにマスクが品薄になってくる。

2月には、対策としてもマスクが日本では利用され、一方でそれはあまり効果がないのではという指摘もあった。政府の基本方針も中旬以降には出され、ここでは閉鎖空間での対面による感染リスクの拡大があること、手洗いや他人との距離をとることが述べられ、混雑した場所での通勤、通学への注意喚起が行われるようになる。

3月になると、対策としては人同士の接触を減らすということとはもとより、マスクに関してもより機能性の高いマスクが求められることもあり、除菌グッズが足りなくてもアルコール消毒でカバーするためにはどうしたらいいのかということも考えられ始める。大相撲や他のスポーツの試合も無観客という異例の開催によって感染症対策がとられることとなる。この時期においてもマスクや手袋についての効果には賛否両論が報道され、免疫力を高めるための食事や生活についての情報も増え始める。3月下旬には東京都知事の会見で「三密」という言葉が出されたことをきっかけに、三密を防ぐことを合言葉に、日常生活を新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために変えていこうとする動きが加速していく。喫煙者のリスクについての指摘も繰り返しあり、禁煙することで対策になるとの報道も一部みられた。

日本での緊急事態宣言が発令された4月には、対策としては、屋内イベントや飲食店の自粛などが幅広く実施され、休業中の店舗も目立つようになる。都市部での混雑を避けるために地

方へと移動するコロナ疎開もみられ、それに対して関連の自治体から「控えてほしい」と要請があった。これにみられるように、人々が新型コロナウイルス対策のために混雑した場所を避けるという動きが頻繁に見られるようになる。また、人との接触を8割減らす、人との2メートル以上の距離という「ソーシャルディスタンス」の指標も出され、人が集まるイベントや場所は閑散とする。「ステイホーム」という言葉が合言葉として使われるようになり、「ステイホームが命を救う」をスローガンのもとに芸能人や有識者がメッセージを発信することもよく見られ始める。三密対策も馴染みのある言葉となり、外出はそもそも減り、店舗に入る時の除菌や手洗いなども進められ、混雑時には入場制限をする必要性があることも指摘された。

5月では、専門家会議から提言された「新しい生活様式」が報じられ、その言葉がよくみられるようになっていく。ソーシャルディスタンス、マスク、手洗い(30秒ほど時間をかけて)、三密回避、日々の体温チェック、会食での小皿料理推奨など日常の一つ一つの行動を変えていくことが推奨されることとなる。

2.3 新型コロナウイルスの特質と対策に関する新聞報道内容の変化

以上の新聞記事検索の結果にみられるように、新型コロナウイルスの特質や有効な感染防止策については時期によって報道内容に変化がみられる。2020年1月の初期の頃には、COVID-19は他の感染症と同様あるいは軽症であり、パンデミックにはならないことが報じられていた。しかし、時期を経るにつれて、人から人への感染が確認され、感染者や死亡者が増加したこと、重症化リスクが高いことなどが報じられるようになる。

新型コロナウイルスへの対策についても、初期の頃は、上述のようにCOVID-19の症状や特質が十分に把握されていなかったこととリンクするように、通常の感染症対策(主に手洗い)

やアルコール消毒をしていけば問題がないということが報じられていた。しかし、徐々に新型コロナウイルスの感染拡大やその症状がより深刻に報じられるにつれて、多くの個人がマスクを着用するようになり、除菌の徹底やソーシャルディスタンスの確保を行い、緊急事態宣言が発令されると外出が自粛されていく。このように2020年1月から3月までの2か月ほどの間に、新型コロナウイルスの危険性に対する評価は大きく変化し、家庭や企業組織、学校などにおける対応が行われることとなる。

2.4 新型コロナウイルスに関するデマ

前節において述べたように、初期の頃には新型コロナウイルスの特質や有効な感染症対策について明確な方針が示されておらず、報道内容や専門家による意見が大きく分かれており、それらのことを背景として「明らかなデマ」と思われる情報がインターネット上で多数拡散することとなる。そのうち、新聞記事によってデマであることが報じられたものの一部を示したものが以下の表4である。

例えば、2020年1月下旬には、「コロナウイルスの起源そのものがデマである」というデマや、実際には感染者のいない特定地域へのコロナ上陸が伝えられている。また、表4にみられる以外のデマもソーシャルメディア上で拡散され、感染症対策についても、1月にはビタミンC、マイナスイオンなど、いずれも健康に良いイメージのものが新型コロナウイルス対策として有効性が高いかのような情報が一部で拡散されたことが確認されている。

2月にもその状況は続き、2月は上旬から下旬にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響に対する認識が大きく変わっていく時期でもあり、その不確かな状況の中でデマも増加していく。ソーシャルメディア上では、感染状況・予防法に関するデマとしては、マヌカハニー、アロマエッセンス、お湯、発酵食品、漂白剤、アオサなどが有効であるという情報が拡散することもあった。中には「5Gが発生しているところでコロナが発生している。武漢の3000万人の死者も、5Gのテスト指導で起こった」というテクノロジーとの関係をデマにするものも存在した。表4の見出しにも含まれるトイレットペーパーが品薄になるというデマでは、特にトイレットペーパーの買い占めに人々を走らせる要因にもなり、パニックを煽っている。3月になると、政府による新型コロナウイルス関連の報道への注意喚起が行われたこともあり、明らかなデマの拡散はやや目立たなくなっていく。実際、前述の表3にあるように「「デマ、便乗商法に根拠なし」「予防効果」現時点ではすべて根拠なし」（朝日新聞、3月25日）」という記事も存在している。

このように、新型コロナウイルスの特質や有効な対策に関する明確な情報が比較的乏しい時期においては、特にデマが拡散され、新型コロナウイルスへの警戒心から、悪意がなく、注意喚起をしようとした個人から拡散が繰り返された可能性もある。また、デマ情報が拡散される際には、英語や中国語で書かれた情報源やそのリンクが添えられたり、医療関係者からの情報発信であることが伝えられたりすることによ

表4 新型コロナウイルスに関するデマを報じる記事見出し（一部）

月	記事見出し (Source, 日付)
1月	・「デマが SNS で拡散「武漢から関空入りの新型肺炎患者が逃走」モザイク入り微博画像から」(毎日 24 日) ・「新型肺炎めぐり「デマ」「陰謀説」も SNS 時代の「流行感」に便乗」(毎日 31 日)
2月	・「新型コロナウイルスのデマ情報 和歌山県知事が注意喚起」(朝日 4 日) ・「「徳島コロナ上陸しました」新型肺炎、徳島市の医師が誤情報拡散」(徳島 6 日) ・「ツイッター投稿「検査拒否は高知県議」県議会が「該当する議員いない」と否定 新型肺炎」(毎日 7 日) ・「トイレットペーパー品薄 デマ拡散 在庫は十分なのに」(朝日 29 日)

て、あたかも信ぴょう性が高い情報であるかのように思わせるケースもあった。ニュースの根拠となる情報源が読みにくい言語であるために確認を怠ったり、そもそもニュースの情報源を確認していないにもかかわらず、ニュースソースがあたかも信頼性の高いものであると思ひ込み、表面的な情報のみを閲覧してデマが信じられたり、拡散されたりした場合もあるものと考えられる。

3. おわりに

本研究では、筆者らが実施した新聞記事調査の結果に基づき、2020年1月から5月までの報道内容について、新型コロナウイルスの特質とその有効な感染症対策としてどのような報道がなされてきたのかを整理した。また同時に主に2020年1月から2月に拡散されたデマの内容と照らし合わせて、この時期に新型コロナウイルスそのものや感染症対策について不確かな情報が多い中で、混乱が生じていた可能性があることについて指摘した。

本調査では、あくまで検索キーワードによる新聞記事データベースの検索であること、また新聞記事のみを対象（デマについてはソーシャルメディア記事も対象）として検索を行っていることから、すべての新型コロナウイルスに関する報道内容を網羅できているわけではなく、これらの点は本研究の限界である。

これに対して、雑誌やオンラインメディア、動画など、より幅広いニュースメディアまで調査対象を広げることで、より包括的に新型コロナウイルスに関する報道状況や情報発信動向をつかむことができるものと考えられる。また、それらの内容をより定量的および定性的に分析することによって各時期での傾向やニュースメディアごとの報道内容の特徴などを分析することも可能となる。同時に2020年6月以降の新型コロナウイルス関係の報道内容が膨大であるだけでなく、第2波、第3波の到来によって状

況も大きく変化しており、これらに対する調査および考察も今後の研究課題である。2020年以降においても、今後の感染症対策や個人や組織への有用な情報発信を考える上で、新型コロナウイルスならびにCOVID-19に関する報道内容や情報発信状況に対する継続的かつ包括的な調査が必要であろう。

謝辞

本調査の設計や新聞記事検索にご協力くださった下記の皆さまには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

明治大学 商学部 村田ゼミナール 24期

浅井和俊様、伊藤泰良様、加藤樹大様、
加藤紀香様、草野孝昭様、黒沼実生様、
小町琢真様、佐々木豪様、嶋田有羽様、
宝代悠真様、増山彩英子様、松田菜々様、
宮崎航瑠様、向井麻希様、村上慎様、
山本耕生様

愛媛大学 図書館 事務課 三浦さゆり様、

愛媛大学大学院 人文社会科学研究所

張琪様、

愛媛大学 法文学部 鈴木榛夏様